

## 平成30年度大館鹿角地域保健医療福祉協議会の概要

### 1 日 時

平成31年2月7日（木） 午後3時から午後4時30分

### 2 場 所

北部老人福祉総合エリア 多目的ホール

### 3 出席委員（敬称略）

児玉 一、細越 満、櫻庭 庸悦、岩尾 昌子、吉原 秀一、渡辺 徹、安藤 克之、大澤 圭佑、黒沢 光春、豊口 明子、成田 真紀子、武田 由実子、中村 みえ子、丸岡 克彦、本多 浩悦、布谷保子

協議会委員20名中16名が出席した。

### 4 会長及び副会長の選出

会長に福原淳嗣氏が選出され、副会長に児玉一氏が指名された。

### 5 議事・情報提供

進行 児玉副会長

(1) 平成30年度大館福祉環境部の重点事業実績状況について

(2) 平成31年度大館福祉環境部の重点事項について

(1)、(2)は事務局が一括説明。

#### 【質疑応答】

##### (黒沢委員)

フードバンクについて、小坂町・上小阿仁村の支援世帯数で「4世帯のべ4回」とは、1回で4世帯か。

##### (事務局)《宮崎班長》

同じ世帯で2回支援したこともあるため、小坂町では2世帯に1回ずつ、上小阿仁村では5世帯に計8回となっている。

##### (黒沢委員)

支援件数が少ない気がする。

次に、「野菜+（プラス）1皿運動」について、説明では大館市では実施しているという説明であったが、現状について全く記載されていない。内容の説明を載せないと報告にはならないのではないか。

このほか、不法投棄未然防止事業の記載で、鹿角市の表記が正確ではない。

##### (事務局)《鎌田班長》

鹿角地区での実践内容しか書かれていなかった。大館地区でも実施しているため、今後記載していくこととしたい。

**(事務局)《藤原班長》**

鹿角市山根地区については、反対側の地区との境目の箇所であったためこのように表記した。勘違いがあったので訂正したい。

**(安藤委員)**

手洗い教室は4回開催されているが、学年毎に開催されているのか。行うにあたり、効率的な実施方法なのか。

**(事務局)《齋藤地域環境専門員》**

小学校の児童にたいしては、あまり学年が低い児童を対象とすると、児童がなかなか集中しにくいことがあり、今は3年生・4年生を主に対象としている。また、何年かして同じ学校を対象とする場合は、前回と同じ学年を対象としており、児童が順繰りに受講できるようにしている。

ちょうど3年生・4年生を対象として実施した場合に反応が良い。受講した内容を児童がその内容を家庭で伝えられることができるのが、ちょうどこの学年である。

**(安藤委員)**

平成31年度の実施予定2校は、平成30年度の実績4回・4校より少ないが、増えていく可能性はないのか。

**(事務局)《齋藤地域環境専門員》**

学校の選定は、教育委員会と協議をしてできるだけ各校に順繰りに回るようにしている。毎年、同じ学校に実施ということではないが、ある程度何年か毎に回るようにしている。

**(武田委員)**

大館市では、昨年度は市産業祭のほか、大館桂桜高校で1月に1年生を対象に実施した。

今年度も、2月13日に同じく1年生を対象に授業を実施することになっている。

昨年度の実施状況は、全員が家庭の味噌汁を持参してきて、全部塩分測定をしたところ、ほぼパーフェクトの「薄味」の結果だった。アンケートの結果は、塩分よりも野菜に関する関心が多かった。「野菜をとれていない」「もっと野菜を食べないと」という声が多かった。

**(岩尾委員)**

資料全体のことだが、フードバンク、といった用語の説明を最初に行うべきではないか。内容を説明後に用語の説明がある資料がある。

また、フードバンクは、食糧支援をやってどうなったのか、また今後、市町村・町内会などにどう引き継いでいくのか、分析した結果を教えてほしい。

**(事務局)《宮崎班長》**

フードバンクは、食糧支援をして終了、というものではない。食糧支援は緊急的な援助であり、直接支援を利用している方から直接福祉事務所に、というよりは、例えば民生委員や社会福祉協議会を通じて支援が必要だという声がかかってから初めて行っている。その際には当然ながら、支援に至る前に経由地があるので、その方と一緒に支援が必要な方を訪問して食糧支援をして、今後どうしていくかということで生活困窮者の事業に結びつけていくということで有効であり、今まで入り込めなかった世帯に入り込めるきっかけの一つとして機能している。しかし、残念ながら、なかには、それ以上の支援を不要とする

世帯もあるため、全てが繋がっているわけではないが、基本的には食糧支援をきっかけにして支援に繋がっていている。

用語の説明については、平成31年度の事業計画には載せているが、次回以降、用語の説明を先に行った上で事業の実施状況を報告していくようにしたい。

#### **(丸岡委員)**

生活困窮者支援事業について、始めてから1年ということで対象者が少ない。支援に繋がっていく連携の仕組みを事業に組み入れていくと良いのではないかと。

#### **(事務局)《宮崎班長》**

生活困窮者支援事業には、このほかにも就労関係のほか、家計改善事業、こどもの学習支援事業などいろいろなメニューがあり、その最初が相談を受ける、という機能である。

相談を受けた後、次にどのような支援に繋がっていくかということになると、支援が必要な方の状況によるが、就労に結びつける事業、家計を改善していく事業であるとか色々な選択肢がある。北福祉事務所が管轄している上小阿仁村と小坂町でいうと、相談者の比率のうち高齢者が高く、就労というよりは家計の問題が大きい。相談の中で家計簿をつけることにより、支出のどこに問題があるかが見えるように、担当が工夫して行っている。

例えば、社会福祉協議会でいうと貸付事業と一緒に検討しながら支援していく、といったように、また、住民登録が職権で消除された方と担当者が役場に一緒に行って登録を復活し健康保険にかにゅうしたりなど、少しずつであるが改善に向けて努力を続けているところである。

各支援機関相互の連携は、定期的な情報交換をしており、うまく機能していると考えている。

#### **(布谷委員)**

小坂町、上小阿仁村の他、大館市でも「いとくショッピングセンター」の近くにフードバンクの旗が立っている。私もこども関係に携わってきたが、学校関係はなかなか見つけるのが容易ではない。民生委員も地域から出ているので、その辺はなかなか難しいのではないかと。なぜこの資料に大館市の記載がないのか。大館保健所では把握しているのか。

#### **(事務局)《宮崎班長》**

生活困窮者支援事業は、法律で福祉事務所を所管しているところに相談事業を置くことになっている。大館福祉環境部(北福祉事務所)は、小坂町と上小阿仁村が担当となっている。大館市、鹿角市についてはそれぞれの福祉事務所が実施している。関係機関の連携はそれぞれの福祉事務所、鹿角市については社会福祉協議会に委託して実施しているため鹿角市社会福祉協議会を含めて連携ということ。また、北秋田市、北秋田市社会福祉協議会も関係機関の定例会で情報交換している。そのため、大館市の状況についてはここでは報告していない。

先ほどの補足で、1月31日現在の小坂町、上小阿仁村の今年度の新規相談件数は16件となっている。その中で全てが食糧支援というわけではないが、9件・9世帯について継続的に関わっている。

大館市、鹿角市については人口が多いため当所より相談件数は多いが、今年度の16件については、昨年度の年度計より既に多くなっている。27年度から年々件数は下がってきていたが、30年度に上がってきている。

#### **【その他】**

### **(吉原委員)**

大館鹿角地区の皮膚科医が不足している。市立病院は非常勤でカバーしているが、インフルエンザの流行は下火になってきている。今は、H1・H3型が流行している。学級閉鎖も減少している。

### **(児玉委員)**

分娩機能の集約について、お礼を申し上げたい。昨年10月から大館市立総合病院に集約されたが、特に問題なく、これまで40人ほどが出産した。鹿角市としては、子育て世代包括支援窓口を整備し、妊産婦の相談対応の充実を図っているほか、交通費、宿泊費の助成制度を新設している。今後とも、安心・安全な出産のため、密な連携をお願いしたい。

### **※ (事務局) 《菅原班長》**

今後、地域医療推進部会と救急・災害医療検討部会を3月13日に合同で、献血推進部会については3月20日開催する予定。委員の構成については、配付資料のとおり。

### **(閉会)**